

地域とともに。
みどりの銀行のイーハトーヴ宣言!

地域のみなさまの心の中には、それぞれ思い描く「理想のいわて・東北」があると思います。私たちは、現実の「岩手・東北」のなかでその理想が少しでも形を成すことができるよう行動していきたいと考えています。コーポレートカラーが「みどり」の岩手銀行が掲げた「みどりの銀行のイーハトーヴ宣言」には、そうした決意が込められています。

今後も、地域のみなさまとの積極的なコミュニケーションを通じて地域社会の持続的発展に貢献し、地域のみなさまが思い描く「理想のいわて・東北」が現実のものとなるよう日々努力してまいりますので、一層のご愛顧をよろしくご願ひ申し上げます。

平成28年12月発行
株式会社 **岩手銀行** 総合企画部 広報CSR室
〒020-8688 盛岡市中央通一丁目2番3号
TEL 019-623-1111 (代表)
<https://www.iwatebank.co.jp/>



いわぎん レポート

岩手銀行中間期ディスクロージャー誌
(情報編)

2016

The Bank of Iwate, Ltd.
Report 2016

いわぎん
Today

【東北6次産業化サポートファンド】

大船渡支店 × 株式会社三陸リゾート

海の幸を加工し、販売へ。

6次化で目指す賑わいの創出。

ご自由にお持ち帰りください

岩手銀行
The Bank of Iwate, Ltd.



平素より、岩手銀行をご利用、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

この度、当行に対するご理解を一層深めていただくため、「いわぎんレポート」を作成いたしました。本誌では、地域社会の活性化に向けた当行の取組みや現況などをよりわかりやすくご紹介しております。ご高覧のうえ、当行をさらにご理解いただければ幸いに存じます。

さて、当行を取り巻く環境は、日銀によるマイナス金利導入や人口減少による将来的なマーケットの縮小等により、依然として厳しい状態が続くことが予想されております。こうした厳しい環境を克服するため、当行では従来の枠組みからの変革に挑戦し、地域とともに歩んでいくことをテーマとした新たな中期経営計画「いわぎんフロンティアプラン 2nd stage～The・イノベーション～」を平成28年4月よりスタートさせております。

経営理念である「地域社会の発展に貢献する」「健全経営に徹する」を堅持し地域経済を支えていくためにも、この中期経営計画で掲げる3つの基本方針、「組織文化の変革による収益力の強化」、「地方創生と震災復興への力強い取組」、「ステークホルダーへのきめ細やかな対応」に沿って具体的な施策・支援を着実に実行していくことが重要であり、これにスピードをもって取り組んでいきたいと考えております。

今後とも地域のみなさまから信頼され選ばれる銀行となるため、役職員一同全力を尽くしてまいりますので、一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。
平成28年12月

代表取締役頭取

田口幸雄

目次 contents

頭取メッセージ	1
いわぎんToday	2
「赤レンガ」通信	4
CSRインフォ	6
支店&行員紹介	7
業績トピックス	8

銀行法施行規則等で規定された開示項目は、後日発行いたします「いわぎんレポート2016(資料編)」をご参照ください。



表紙のひと マグダレナ・ソレさん
[スペイン生まれスイス育ち]

1984年に米国ニューヨークに移住し、現在も家族と在住。7カ国語を話す。

ソーシャルドキュメンタリー写真家。感情を色彩で表現する手法を好み、独特の色彩で繊細な表現をする事で有名。1989年にTransImage(グラフィックデザインスタジオ)をニューヨークに設立。2002年にはニューヨーク、コロンビア大学で美術学部映像学科修士号取得。2009年にアカデミー賞長編記録映画賞を受賞した“Man On Wire”ではユニットプロダクションマネージャーとして活躍。

写真家としては今年世界で活躍をする8人の写真家に選ばれ、今後、東京、シンガポール、ニューヨークで巡回展が開催される予定。



9月30日～10月10日、岩手銀行赤レンガ館にて、震災の記憶を留めるための写真展「マグダレナ・ソレ展 -SINCE THAT DAY-」が、いわて国体文化プログラムの一つとして開催されました。

海の幸を加工し、販売へ。
6次化で目指す賑わいの創出。

〔東北6次産業化サポートファンド〕
大船渡支店×株式会社三陸リゾート



株式会社三陸リゾート 代表取締役

志田 豊繁さん

ホテルができたこと自体が凄いです。いわぎんさんには、感謝しています。今後も、さまざまな情報や支援をいただきながら、地域の将来に貢献していきたいです。



岩手銀行大船渡支店

佐々木 辰一郎 支店次長

震災直後から、市民にお風呂を提供する活動を始めるなど、地元のために考えている社長。その熱い気持ちを形にするために、ぜひとも力になりたいと思いました。



広々としたロビーから、海を望むロケーション。元日には、日差しがまっすぐに差し込みます。

平成26年夏にオープンした「大船渡温泉」。志田豊繁社長は「東日本大震災で被災し仮設住宅に住む市民が、足を伸ばして入れる風呂を造りたい」と、取引のあった当行大船渡支店に融資を相談。支店と本部が連携して、復興支援ファンドなどの情報を提供しながらサポートし、開業へとこぎつけました。

そして今年、そのタッグは次なるステップへ……。

自身もワカメやホタテの養殖を手がける志田社長は、地元の海産物やその加工品の生産に加え、大船渡温泉の隣接地でそれらを販売する産直や食堂を造りたいと、再び当行に相談したのです。担当となった佐々木辰一郎支店次長は、「私の実家もワカメ養殖をしています。地元の人たちのためにという強い気持ちをお聞きし、他人事とは思えませんでした」と振り返ります。佐々木支店次長は、本部と連絡を取りながら志田社長と話し合いを重ね、最終的に「東北6次産業化サポートファンド」による支援を実現。この11月に、施設建設に着工することとなりました。

完成後は、「産直を中心に、軽トラ市を充実させたい。たくさんの人に大船渡に来て滞在していただき、地域の

賑わいをつくっていただければと思います」と志田社長。「志田社長の地元に対する愛は、とても強い。その気持ちに応え、大船渡の賑わいを創出するためにも、コミュニケーションを深め、時には悩みも聞き、提案もしながらサポートをさらに続けたいと思います」と佐々木支店次長。復興から先の賑わいを見据えて。この二人三脚は、これからも地域を支えていきます。



岩手銀行法人戦略部
ソリューション営業グループ
佐藤 恒一 調査役

大船渡温泉の建設にあたっては、建物の階数など事業計画について、いろいろと提案をさせていただきました。その後は、地元を思う社長の熱意を感じながらサポートをしてきました。当行が出資する東北6次産業化サポートファンドは、農業はもちろん、漁業者の方たちにも活用していただけるものです。今回の支援は、当行にとって同ファンドの第1号案件でもあります。復興のために、そして今後のモデルとなっただけのように、引き続きお手伝いしていきたいと考えています。

これまでも、これからも
街の記憶を背負う建物です。

赤レンガ館 OPEN 平成28年 7/17



7月17日(日)、約3年半の
保存修理工事を経て、「岩手銀行
赤レンガ館」がオープンしました。
生まれ変わった「赤レンガ」の
姿を一目見ようと、観光客だけ
でなく、多くの地元の方が訪れ、
館内は大いに賑わいました。



あいにくの雨模様の中でしたが、セレモニーや記念イベントが開催されたオープン
初日の来館者数は約1,200人！多くの方が赤レンガ館を堪能しました。

今年7月にオープンした「岩手銀行赤レンガ館」。その
リニューアル事業にコンサルタントとして関わったのが、
凸版印刷株式会社の大石純一さんです。

平成23年の秋、当時は現役の店舗として使用されていた
中ノ橋支店の文化施設化計画の相談を受け訪ねたときが、
「赤レンガ」との初めての対面でした。同年3月に起こった
東日本大震災で、亀裂が入った天井や壁面を見て、これほどの
建造物もこうなるのかと驚愕したといいます。そして、「修復
はできないが、文化施設にするという作業で、自分のこれまで
の経験や力を活かそう」と、強い決意を抱きました。

プロジェクトが動き出し、大石さんは街の歴史を紐解い
たり、周辺の住民から話を聞いたりしました。「調べるほどに、
盛岡の中心地であったこと、ランドマークとして長年、市民
から親しまれてきたことがわかりました。観光のためでは
ない。人々の暮らしとともにあるのだと」。その存在は、
ビジネスでは割り切れないと感じ、いっそうプロジェクトに
対する思いが深まったと笑います。

自身も赴任地だった仙台で被災し、その後、仕事以外でも
復興支援に携わってきた大石さんは、この一大プロジェクト

を終えて「自分なりの復興支援に対するけじめがついた
ような気がしました」といいます。そして、赤レンガ館と盛岡
の今後に、期待を寄せます。

「赤レンガ館は、これからも街の記憶を背負っていく建物
ですから、行政も市民も一緒になって活用方法を考えて
欲しいですね。例えば、岩手県公会堂や鉾屋町など、ほかの
歴史資産と組み合わせた『まちあるき』はどうでしょう。
それも、流行りのスマートフォンを活用しながら」。地域
住民が、赤レンガ館を拠点に、ふるさとについて学び、語れる
ようになればと考えての提案です。

何年か先に大石さんが再訪したとき、「素晴らしい」と
目を細めるような姿を見せられたら……。赤レンガ館の新しい
歴史は始まったばかりです。

凸版印刷(株)トッパンアイデアセンター
シニア・プロデューサー
おお いし じゅん いち
大石 純一さん

昭和53年、凸版印刷に入社。トッパンアイ
デアセンターに配属後は、企画プランナー・
プロデューサーとして、主に大手化粧品会社、
自動車メーカー、流通などの店舗・施設の
開発や運営、事業開発に携わる。



セレモニーには文化庁参事官や盛岡市長がご参加。また、イベント第1部では、長岡造形
大学准教授(前 文化財保存計画協会)の津村泰範さんによる記念講演が行われました。



第2部では、森知英さん(ピアノ奏者/盛岡市出身)と戸田智子さん(オーボエ奏者/
花巻市出身)によるミニコンサートが行われ、多くの観客を魅了しました。



ボランティア活動



各都道府県の前頭で約50人の岩手県選手団が入場行進



岩手銀行では、「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」の国体パートナー・大会パートナーとして、両大会の成功を応援したほか、開会式・閉会式に約200名の行員がボランティアとして参加し、両大会の運営をお手伝いしました。

46年ぶりとなる岩手県での国体開催を、こうした様々な形で応援・支援することで、地域の人の「豊かなころ」づくりを目指しています。

PRブース 開会式当日は、国体パートナーPRブースを出展。1億円(レプリカ)の重さ体験などにぎわいました。



1億円重いけん!

来年開催のえひめ国体マスコット「みきゃん」も体験! 再来年のふくい国体マスコット「はびりゅう」も来てくれました

各支店の店頭でも国体を応援しました!



ウォールステッカー



店舗壁面広告(一関支店)



バナー広告



ATMコーナラッピング(盛岡駅前支店)



国体応援ポロジャツ(県庁支店)



「正確に、スピード感を持って対応するよう心がけています」と話す川村いぶき行員。

「ふるさとの力になりたい」。そう考えて大学卒業と同時にUターンし、今年4月に入行した川村いぶき行員。「地域や企業を支える仕事であり、個人のお客さまにとっても大事な存在だから」と岩手銀行を志望しました。現在は、窓口担当として、お客さまに接しています。「銀行業務は覚えることが多いほか、お客さまの大切な財産を預かる仕事ということでいつも緊張の連続です」と話します。

川村行員には、ハンドボール選手という一面も。いわて国体出場を目指していましたが、残念ながらその夢は叶いませんでした。しかし「アテネオリンピック銀メダリストの張素姫さん(元韓国代表日本の永住権を取得)をはじめとする世界の第一線

で戦ってきた選手達との練習が、とても良い経験になりました」と振り返ります。トップアスリートから学んだ、やるべきことに真摯に向かっていく姿勢を仕事に活かせたらと感じたそうです。

将来は、ビジネスの活性化や地域おこしに関わる業務に携わりたいという川村行員。「その目標に到達するためには、結果を残さないと。そのためにも日々の仕事を確実にやり、力が発揮できるようにスキルを積み上げていきます」と表情を引き締めました。



岩手銀行中ノ橋支店
〒020-0871
盛岡市中ノ橋通1-2-16
TEL 019-654-5571



大学時代はディフェンスの要として活躍したほか、副キャプテンとしてチームをまとめた。

赤レンガ館に隣接する中ノ橋支店。「土地柄もあり、昔からのお客さまが多いです。皆さん、優しく接していただきます」と笑顔に。

1

支店&行員紹介

地域のために働きたい。
目標に向かい日々、確実に。

岩手銀行中ノ橋支店

川村いぶき



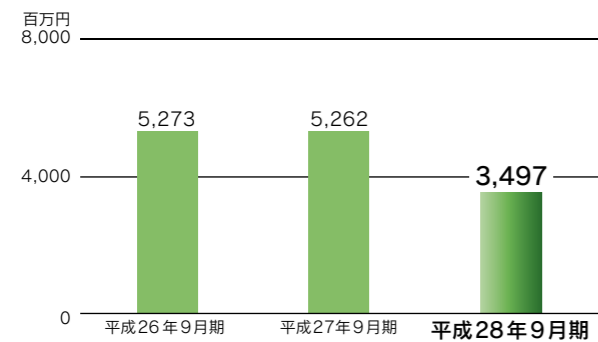
業績トピックス

●諸計数は原則として単位未満を切り捨てております。●構成比は100に調整しております。

主要な指標の推移

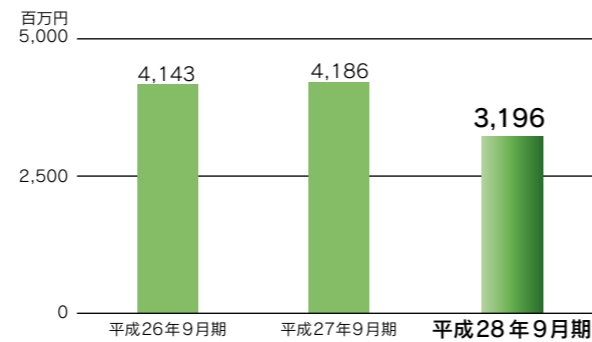
コア業務純益

コア業務純益は、運用利回りの低下による資金利益の減少に加えて、デリバティブ関連費用が発生したことから、前年同期比17億円減益の34億円となりました。



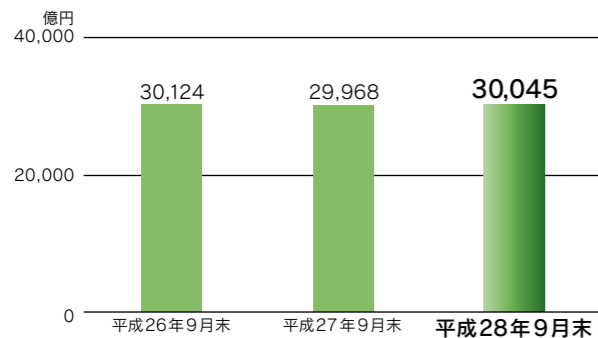
中間純利益

中間純利益は、与信費用の減少や退職給付制度の変更に伴う特別利益の計上があったものの、コア業務純益や有価証券関係損益の減少により、前年同期比9億円減益の31億円となりました。



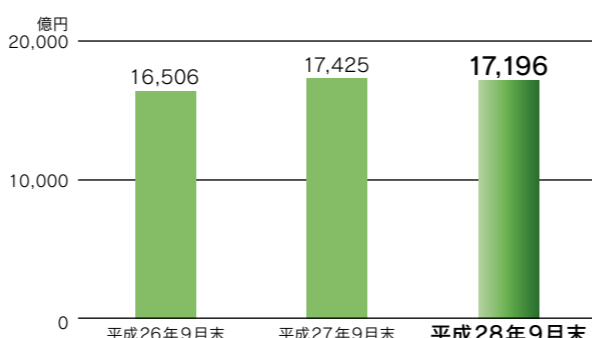
預金等残高

法人預金の増加を主因として前年同期比77億円増加し、期末残高は3兆45億円となりました。



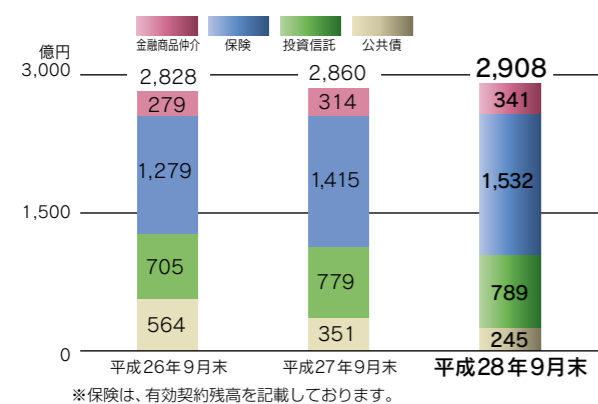
貸出金残高

個人向け貸出が増加したものの、法人向け貸出および地方公共団体向け貸出が減少したことから、前年同期比229億円減少し、期末残高は1兆7,196億円となりました。



預り資産残高

保険および金融商品仲介の増加等により前年同期比48億円増加し、期末残高は2,908億円となりました。



用語のご説明

〈自己資本比率〉

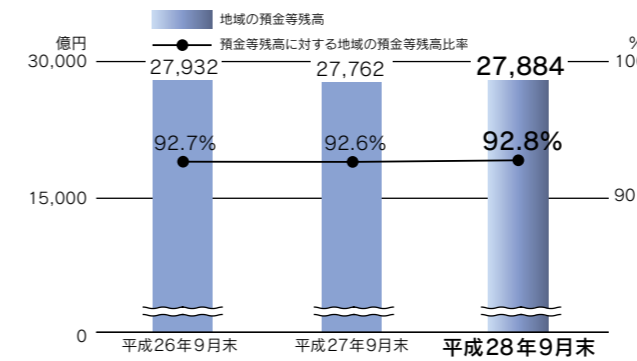
信用の程度に応じてウェイト付けした資産および事務事故、システム障害等で損失が発生する可能性のある金額の合計(リスクアセット)に対する自己資本の割合です。この比率が高いほど不良債権処理等に対する備えが充実していることを示し、当行のような国内支店だけの銀行は4%以上の水準を維持する必要があります。

「地域」の定義

当行にとっての「地域」とは、当行の主要な営業基盤である「岩手県」を指しています。なお、県内向け預貸金等各種記載計数につきましては、岩手県内各店舗の合計数値としています。

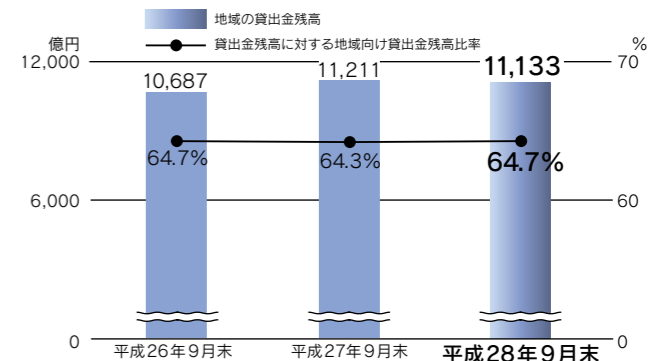
地域の預金等残高の推移

平成28年9月末の地域の預金等残高は2兆7884億円で、預金等全体の9割以上を地域のお客さまからお預かりしています。



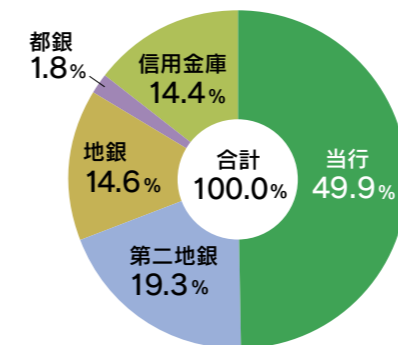
地域向け貸出金残高の推移

平成28年9月末の地域向け貸出金残高は1兆1,133億円で、総貸出金に占める割合は64.7%となっています。



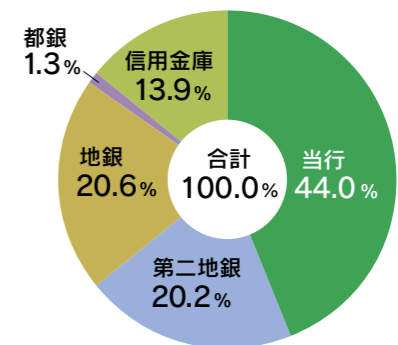
県内預金等シェア

平成28年3月中平均残高ベース



県内貸出金シェア

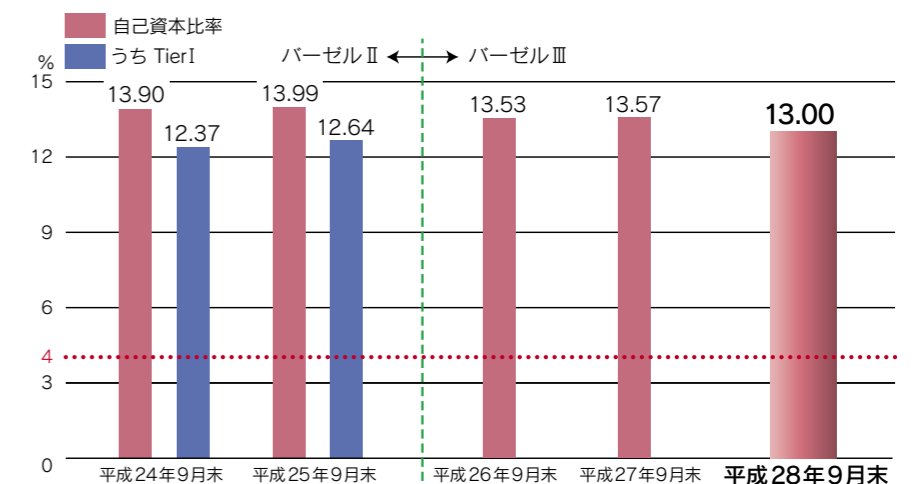
平成28年3月中平均残高ベース



岩手県内における当行の預金等・貸出金シェアは、県内の地銀、第二地銀、都銀、信用金庫のなかでトップとなっています。(注)県内シェアは、国内銀行(ゆうちょ銀行を除く)および信用金庫による割合です。

自己資本比率

自己資本比率は平成26年3月期より新基準(パーゼルⅢ)で算出しております。平成28年9月末の単体自己資本比率は、13.00%となり、引き続き高い水準を維持しております。



格付け

「格付け」とは、企業の債務履行能力を第三者である格付機関が客観的に評価し、その結果を簡単な記号で表したものです。当行は国内外の2社の格付機関から「格付け」を取得していますが、双方から安全性を高く評価されています。

